○発表者
奥野美里（株式会社コクリエ）

○タイトル
本人の語りを描いて共に見る――日々の意思決定を支える対話
―ケアするグラフィックファシリテーションの実践から

○キーワード
ビジュアルナラティブ、自己決定、意思決定支援、語りの可視化

○発表概要
私は「ケアするグラフィックファシリテーション」（以下、ケアグラ）を相談支援で実践し、講座や研修で対人援助職に伝えてきた。2024 年の大会ワークショップでは、自己決定を相談支援の軸に置き、本人が考えられる環境としてケアプランを提案した。この 2 年の実践を通して、描きながら聴き、本人の語りを描いて共に見ることが、日々の意思決定をどう支えるのかという問いが育ってきた。小さな選択や選び直しの積み重ねが暮らしをつくり、人生を形づくる。描いたものを本人に返して一緒に確かめ、描き直す過程で、どのようなやりとりが「受け止められた実感」と結びつくのか。また、それが本人の思いや経験の捉え直しや、本人の望む方向を考える対話にどうつながるのか。Wong & Pos（2014）は初回面接での自己開示と治療同盟の関連を報告し、石井ら（2022）は共創会議でグラフィックレコーディングが共通理解を支える可能性を示した。いずれもケアグラの効果を示す研究ではないが、問いを考える手がかりとなる。実践知をまとめた一般書を執筆中である。本発表では実践場面と先行研究との接点を示し、描いて共に見る対話が日々の意思決定を支える可能性について参加者と対話したい。

参考文献
Wong, K. K. Y., & Pos, A. E. (2014). Interpersonal processes affecting early alliance formation in experiential therapy for depression. *Psychotherapy Research, 24*(1), 1–11. https://doi.org/10.1080/10503307.2012.708794
石井陽子・中谷桃子・渡辺昌洋（2022）「共創的な対話におけるグラフィックレコーディングの効果」『ヒューマンインタフェース学会論文誌』24（1）, 37–52. https://doi.org/10.11184/his.24.1_37